

ボールの特性レポート

BALL REPORT



ボール名	THE KINETIC HYBRID		投球者	徳江 和則	センター	平和島スターボウル	
RG	2.480	△RG	0.040	●ピン	★PAP	✕CG	■バランスホール

テストボール：THE KINETIC HYBRID

フレアーの幅 インチ

表面加工

- 箱出し状態
- 加工
- ペーパー
- ポリッシュ

番

Ain/PAPからピンとの距離 5 インチ

研磨剤

比較対照ボール：THE KINETIC

フレアーの幅 インチ

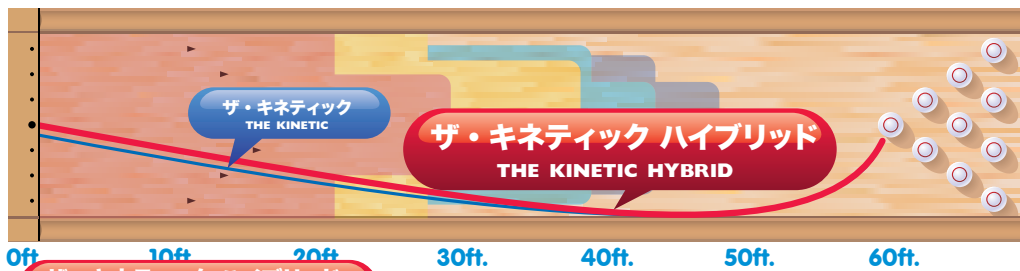
表面加工

- 箱出し状態
- 加工
- ペーパー
- ポリッシュ

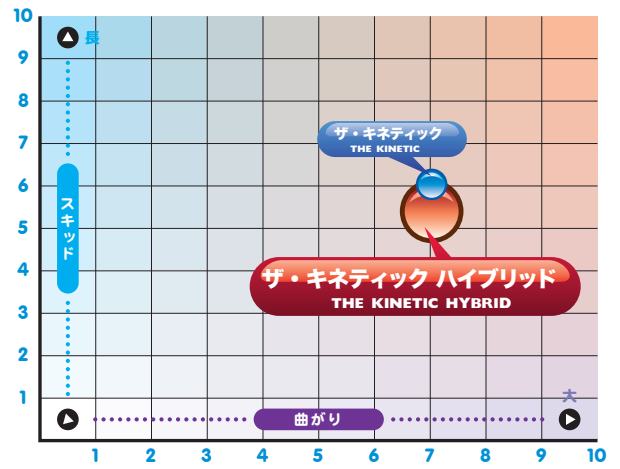
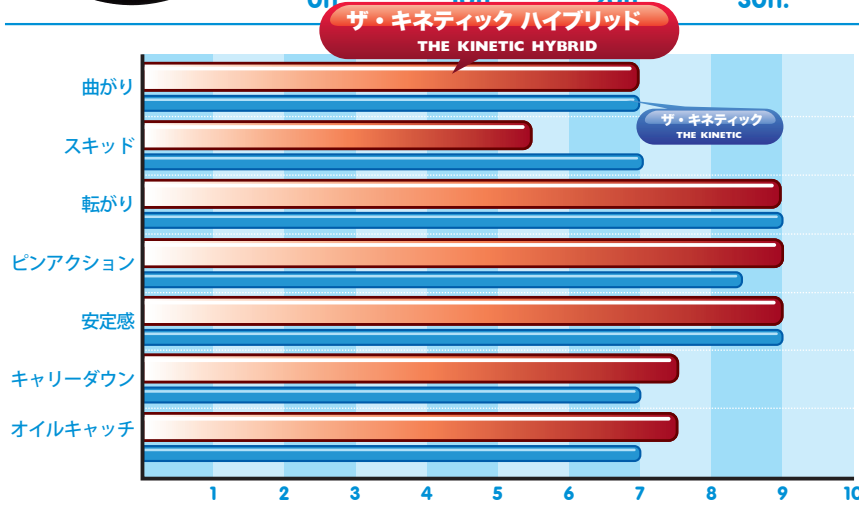
番

Ain/PAPからピンとの距離 5 インチ

研磨剤



- ヘビー
- ミディアム
- ライト
- バフ



ボールの評価

2007年8月初代KINETIC発売以降、これまでさまざまなスペックでKINETICシリーズをリリースしてきました。時代の流れと共にカバーストックを構成する添加物は性能そのものの特性を変え、パフォーマンスをより高くしていると言っても良いでしょう。今回リリースするThe KINETIC Hybridは、カバーストックを新たにSolid ReactiveとPearl Reactiveとの配合調整でHybrid化させ、オイルに対しての強さを持たせながらHook期からRoll期の動きをスムーズにして、より安定感を求める設定をしました。

もちろんキネティックの特有のしなやかな動きとフリップ感のあるリアクションは継承されています。今回私達ABSボール開発チームがこのThe KINETIC Hybridに求めたものは、スキッドの中にもキャッチを感じる、初代KINETICよりワンランク上の扱い易さとピンアクションの向上です。そのためにShuttle CoreのMagnetite構造とHybridカバーストックとのマッチングをこれまでの開発データより導き出すことで、初代KINETICより反発係数を下げ、コンセプトに見合う低く押し込むようなアクションを実現させています。

総合的なリアクションイメージは、テスト段階から比較を行ってきたThe KINETICや408ACと比べると、このThe KINETIC HybridはThe KINETICと同じぐらいのスキッドとキャッチ力を感じるのですが、ややKINETIC Hybridのほうが早めに起き上がるような感じが見受けられます。やはりHybrid系カバーの特性を生かしてスキッド力を高めています。ランクアップされたカバーストックの強さは比較をすれば、やはりその差は安定感として得ることができます。

厳選されたカバーに反発係数まで計算されつくしたThe KINETIC Hybrid。このボールに死角は見つかりません。

特記事項

KINETICファン待望のHybridカバーストックを纏うことで表現される質の高いスキッドと安定感のあるキャッチ力。ミディアムコンディションを中心にその対応幅の広さは折り紙つきです。